

刊行にあたって

筆者が初めてCERECシステムを使用したCAD/CAM臨床を始めたのが2006年、そしてIPS e.maxCADを使用したステイングレーステクニクを臨床に用い出したのは2008年からである。以来勤務医時代から開業医となっただいまに至るまで、日々CERECシステムを使用し、ステイングレーステクニクにてキャラクタライズ（個性化）したオールセラミッククラウンを製作、装着している。

ターニングポイントとなったのは2008年、リヒテンシュタイン公国のIvoclar本社ICDEでの、IPS e.maxCADとチェアサイドファーマネスProgramat CSのアジア圏における発売開始に合わせた研修コースであった。高強度ガラスセラミックスを使用して、チェアサイドにてステイングレーステクニクを行う確立されたシステムと、出来上がるオールセラミックス修復物の美しさに魅せられ、帰国後すぐに自身の臨床に取り入れた。Programat CSから焼きあがってくる、自身がステイングレーステクニクにて個性化を施したクラウンを初めて見たとき、その美しさに感動したことをいまでもはっきりと覚えている。

近年デジタルデンティストリーは急速に拡大し、CERECシステムに代表されるCAD/CAM機器を使用したCAD/CAM臨床は、もはや一般的になりつつある。歯科医師がチェアサイドにて、短時間のうちに一定以上のクオリティが確保された補綴物を、いつでも誰にでも提供できることこそがCAD/CAM臨床の肝であり、その実現にはCERECシステム、高強度ガラスセラミックス、そしてステイングレーステクニクが現時点ではベストな選択肢であると考えている。

本書は筆者が10年以上にわたり培ってきたステイングレーステクニクの基本的な考え方とその着色パターンについて、実際の臨床に即したかたちでまとめたものである。

内容的にはやや技工よりの、デジタルの裏側にあるアナログ手技について記載した、ある種マニアックな一冊ではあるが、CAD/CAM機器を駆使して天然歯に適合した補綴物を製作するためには、ステイングレーステクニクは必須技能であり、当然歯科医師自身がチェアサイドにて行えることが最も望ましいとの考えから、その技法について自身の知る知見と技術を紹介させていただいた。手に取っていただいた先生方がCAD/CAM臨床を行ううえでの一助となれば幸いである。

2022年11月

佐々木英隆